

## 「日本超音波医学会による被災地への支援状況について」報告

〈2016年4月20日現在の記録〉

震災後、被災地への緊急支援などが不足しているとの報道などもあり、医療支援活動に於いて、超音波診断機器の不足など、被災地からの要望がないか、九州在住の理事に調査を依頼した結果、熊本市民病院、並びに済生会熊本病院から本会に対して携帯型超音波装置の輸送要望がありました。また、日本心エコー図学会、日本静脈学会、日本血管外科学会、日本心臓血管外科学会などからも避難所の検診チームなどへの診断装置貸与についての協力要請もあり、4月18日に超音波機器メーカー4社（シーメンスヘルスケア株式会社、GEヘルスケア・ジャパン株式会社、東芝メディカルシステムズ株式会社、株式会社フィリップスエレクトロニクスジャパン）に機器貸与の要請をした結果、4月20日迄に合計7台をご提供いただきました。しかしながら、被災地区への輸送手段がほとんどない状況から事務局職員が直接貸与していただいた機材を飛行機で輸送し、熊本空港にて現地基幹施設の医師に直接手渡し、基幹施設から各地区内に派遣される医師団に携行していただいております。今後も超音波機器メーカーから追加での機器提供の申し出をいただいておりますので、要望に応じて輸送を行ないたいと考えております。

なお、基幹施設以外からも個別でのご要望も数件いただきましたが、個別要望には対応が困難な状況です。この様な個別でのご要望には、本学会事務局（office@jsum.or.jp）までご連絡をいただきましたら、こちらで基幹施設と相談し対応を考えたいと思います。被災地の会員の方々でご要望がある場合には、本学会事務局までお知らせください。

ひとまず、これまでご協力を申し出て頂きましたメーカー各社、また基幹施設で機器の収受・管理をお引き受け頂いている会員各位に、深甚なる敬意を表します。今後も本学会として可能な支援を行なってまいります。そして被災地以外の会員の皆様の継続的なご協力をお願いいたします。

日本超音波医学会理事会・事務局

\* 今回の輸送に関し、用いたルートを記録として残します。ご協力いただいた諸関連機関の皆様にご心からお礼申し上げます。

[熊本市民病院・済生会熊本病院への輸送]

4月20日（水）PM、JALの羽田ー熊本便で「救援物資輸送支援」を受け輸送。熊本空港にて熊本市民病院、済生会熊本病院の管理を引き受けていただいた先生にピックアップしてもらい、各病院で保管・管理を行っていただいている。